

Hondaは、若い人はもとより、幅広いお客様が手軽に扱え、二輪車のある豊かな生活の提案として、小型モビリティの提供に積極的に取り組んでまいりました。その変遷を時代背景とともにご紹介いたします。

1975年当時、113万台規模の国内二輪車市場は、1976年にHondaがファミリーバイク市場を創造する目的で「ロードパル」を発売して以降、他社の参入も加わることで成長が加速され、初代「タクト」を発売した1980年には、国内販売台数は年間約237万台、その後82年には328万台と市場規模を拡大させてまいりました。

この市場規模拡大の主な要因は、80年代のモータースポーツの隆盛による男性のスポーツバイクへの興味関心の高揚とともに、女性の本格的な社会進出に伴い、その活動範囲を広げる簡便な通勤用バイクへのニーズが高まったことが考えられます。

その後Hondaは、時代の要請に応え、経済性に優れ利便性の高い排気量50ccの第1種原動機付自転車（以下原付1種）の市場に、個性あふれる製品を開発し投入してまいりました。中でもスタンダードスクーターとして中心的な役割を担った「タクト」は、お客様のニーズとともに、乗り心地や利便性、上質さを進化させてきました。

また、次代を見据え高い環境性能と力強く扱いやすさも兼ね備えた原付1種スクーターへの4ストロークエンジン搭載についても積極的に取り組んできました。1982年の「スペース50」、1983年の「ボーカル」、1986年の「タクトアイビー」など4ストロークエンジンを搭載した50ccスクーターを発売してまいりました。さらに、1999年7月には、量産二輪車として世界初のアイドルストップ・システムを採用した水冷・4ストローク・単気筒50ccエンジン搭載の「ジョルノクレア・デラックス」を発売しました。

そして、2014年には、高校生など若者層を中心に、通学環境やスクーターに求めるさまざまな要望を徹底的にリサーチし、既存のスクーターにはない新しいスタイリングや力強く環境性能にも優れた新開発のエンジン「eSP」を搭載した「Dunk」を発売。若い人たちを中心に幅広い方々に受け入れられています。

このように魅力ある商品を開発し市場に積極的に提案してまいりましたが、国内二輪車市場は、駐車場不足などをはじめとした利用環境の悪化を背景に、規制対応などによる製品価格の上昇や、経済環境の悪化などの要因も重なり、2014年では約41万7千台（国内4社合計）の市場規模、原付一種の市場は約22万9千台となっています。

将来の二輪車市場の創造には、二輪車に対する利用環境の改善や各種規制の緩和を訴えながら、より多くの方々にこの原付クラスの魅力と共感の輪を広げ、有用性を享受していただくことが必要不可欠です。

今回、国内二輪市場の再活性化にチャレンジするため、常にスタンダードスクーターとして新技術を投入し、新たな需要を創造してきた「タクト」のネーミングを16年ぶりに復活させました。これには、誕生当初の開発の想いと共に、スタンダードスクーターの原点に立ち返るという意志を込めています。力強く環境性能に優れた4ストロークエンジン「eSP」を搭載し、あらゆる世代に受け入れられるデザインや装備で、新しく誕生したスタンダードスクーター「タクト」の魅力をご理解いただき、ひとりでも多くのお客様に「タクト」のある楽しい生活を送っていただければと思います。



■1980年 初代タクト



■1986年 タクト・アイビー (4ストローク)



■1999年 ジョルノクレア・デラックス (アイドルストップ)